



主な意見交換

魅力ある川づくり、地域協働、拠点施設の多様な利用など、様々なテーマで意見が交わされました。

旭橋周辺の 景観および水辺環境について

「福祉のふれあい花壇活動」でにぎわいある水辺環境を

- 「福祉の川づくりモデル事業」により整備された「フラワーランド」を活用し、子どもやハンディのある人々が安全に親しめる「にぎわいのある水辺づくり」を推進するため、体の不自由な方との花壇活動を考えています。
- 内容は、旭川市公園緑地協会が毎年、花壇事業をやっていますが、その一部のスペースや花を提供してもらい、5月の中くらいの実施をめどに福祉関係の方と協議しながら調整していきたいと考えています。
- 公園を整備する時に、市立病院に入院されている方々に対して、園芸療法活動を導入しようということが、かなり大きく取り上げられました。整備したのはいいが、その後、あまり活用が無いので、市立病院関係者にも一緒に協力してもらおうのいいかもしれません。

地元小学校の総合学習支援について

まずは、地元小学校の先生 や父母の方々と川にふれあう場の提供を

- 地元周辺の小学校の先生方や、PTAに声をかけて「川の現地体験会」をしてはどうかと考えています。日常なかなか知ることのできない周辺の魅力を再発見してもらい、「子どもの水辺協議会」として、地域や行政が学校の先生をうまくサポートできる仕組みを考えていきたいと思っています。
- 今の子ども達は自発的に外遊びをしたがらない傾向があるし、子どもだけで遠くに行ってしまうというのが学校の方針で、子どもが自由にその地域から出るのは難しいと言えます。
- 今回の活動の大きな意味は、学校の先生方や父母の方々をまず「川で遊ぶことが楽しい」という体験を持ってもらい、具体的に楽しいことや危険なことを知ってもらうことです。
- そういう意味で、根気強く教育支援する場を底辺拡大していく方法かなと思います。



旭橋周辺の水辺環境整備について報告と協議がおこなわれました

- 大人が楽しければ子どもも楽しめると思うし、親が率先して楽しんで、伝えていくようにしなくては今の状況を変えていくのは難しいと思います。
- 子どもも学校の勉強だけでなく、自主的に意欲を持って校外活動をするのは、本当の生き方に通じるだろうし、現実にもそういう子は、しっかりと進学している実態もあります。
- まず先生方に体験をしてもらって、自分の体験として生徒さんに話してもらうと迫力が違うだろうし大賛成です。旭川では、先生方の「豊かな心を育てる推進委員会」というのがありPRして勧めたいです。

先生方や父母との現地体験コース(図)



- 19年度から文科省で「子どもの活動推進事業」の一環として、放課後、学校を居場所にしようとして先生や地域の方が関わって、宿題や遊びなどを教えながら夕方まで預かるもので、全国一斉に旭川もモデル事業として始まります。
- 地域全体が居場所だというポリシーがあるので、川の近くにそういう施設(川のおもしろ館)があるととても居場所になりますので、そういう制度を利用した展開を計る方法はあると思います。
- 旭川市には64の審議会があり、その専門部に青少年部に働きかけて広げていくと小学生を対象とした活動はできそうです。
- 川のまち旭川ということで魅力を高めていく



小学校の総合学習支援について様々な意見が交わされました

と街の魅力作りに繋がっていきます。計画していることを少しずつでも丁寧にしていくことが大切です。

- 地元のメディアがプログラムに参加してもらえるとなお有利ですね。

川のおもしろ館の施設活用について

川のおもしろ館と旭川教育大学 との協働プロジェクトで人材育成を

- 旭川教育大学に理科教育を専門とする大鹿先生という方が『水や水資源の重要性を学ぶプロジェクト』に取り組んでいます。そこで、川のおもしろ館に先生を招いて、水や川の学習をしたり、教育大生が先生になって子ども達に川の学習するという取り組みを考えています。これは、川に関する人材育成にもなりますし、将来的には底辺の拡大にも繋がっていくのではないかと思います。大鹿先生からも協力していただけるということですので、教育大学と協働ですめていきたいと考えているところです。
- 是非、市民も参加できるような窓口を開いておいて欲しいです。もしくは生涯教育の一環として道民カレッジの参加など。道民カレッジの単位は、124単位取れば道民学士、それプラス60単位で道民修士、それプラス60単位で道民博士になります。道民博士になった時に、その人達が生涯学習の講師になってもらう時間もありますので、是非、関心もっている多くの市民が参加できるように、何らかの形で制度によって、巧く利用してはいかげでしょうか。
- 例えば大学の中で開いている単位の講義をピックアップして、ここで何かをやるというのは、大学で授業をやったことに繰り込むことができます。そういう面でも使えますし、また、市民が大学の生徒として年間2,000円払えば、どの講義にも自由に参加できるという制度があります。そういうものを巧く使っていれば、けっこう面白い展開ができると思います。
- 様々な制度の中で自然をうまく取り入れた活動というのは、いい意味で子ども達の命を大切にすることに繋がるでしょう。是非、そうならいいなと思います。



北海道教育大学の山形名誉教授



旭川市立大町小学校PTAの後藤氏



北海道ウォーキング協会の加藤指導員



旭川開発建設部の一条課長補佐